

料金別納郵便



岩瀬健一 陶展

—まだ見ぬ方の花をたずねて—

令和8年6月7日(日)~12日(金) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時（最終日12日は午後5時まで）

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

■茶会のご案内 記念茶会 一道— [席主：岩瀬健一]

日時：6月9日(火) 11:00席入、13:00席入

場所：新宿 京懐石 柿 傳（東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビル） 会費：7,000円(税込)

受付・寄付「安与ホール/7階」→薄茶席「残月亭/9階」→点心席「古今サロン/6階」

申込：参加ご希望の方は、下記のお電話かメール又は下の二次元コードからお申し込み下さい。

陶歴 昭和21年 東京に生まれる
昭和41年 松井康成先生に師事
昭和43年 辻 清明先生、辻 協先生に師事
昭和47年 東京都八王子市に独立築窯
平成10年 第45回 日本伝統工芸展 入選、以降、入選多数
平成21年 第3回 菊池ビエンナーレ展 入選
令和7年 第17回 現代茶陶展 土岐市制70周年記念特別賞 現在、日本工芸会正会員

卯月のとある正午、陶芸家の岩瀬健一さんを訪ね、高尾駅のホームに降り立ちました。新宿とは明らかに異なる澄んだ空気が心地よく、気分も上々です。岩瀬陶房は、少し西走すると山梨県という東京都の左端にあり、築100年以上の素敵な古民家に居を構えておられます。伺った春日には、鶯がホーホケチョとさえずり、名残の赤椿が花を咲かせておりました。

岩瀬さんは、傘寿の齢となる今も、高麗茶碗を中心に懸命に作陶に挑まれています。サブタイトルの「まだ見ぬ方の花をたずねて」は、西行法師の歌ですが、常に新しいことに挑戦したいという彼の想いが込められています。弊廊で三年振りとなる本展では、茶陶など約100点を発表します。最新作である裏面の灰釉赤茶碗を拝見すると、そのロブくりの調子が昨今の彼の茶碗の魅力の一つに思えてなりません。どうぞお手に取り、忌憚のないご批評を頂ければ幸いです。

陶房では、奥様の美味しい手料理に舌鼓を打ち、岩瀬さん自ら点てていただいた美味しいお薄も頂き、その茶の湯に親しむお姿に感じ入りました。本会期中には、彼が人生で初めて席主を務める茶会も開催いたします。もちろん私も水屋でお手伝いをさせていただきますので、こちらでもご参会を頂ければ嬉しゅうございます。

店主 安田尚史

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com

6/9 茶会
申込ページ



